

わらで作られた巨大なアートに圧倒

11月29日、古代蓮の里でわらアートまつりが開催されました。

今年は、高さ7メートルのステゴサウルスと全長19メートルにもなる蒸気機関車のわらアートがお披露目されました。来場者は撮影をしたり、使われているわらの感触を確かめたりとアートを堪能。蒸気機関車は運転席に乗ることもできるとあって、子供たちに大人気でした。また、ゼリーフライやつきたて餅の振る舞い、射的などのミニ縁日も行われ、会場は大いににぎわいました。なお、わらアートは3月27日(日)まで展示されます。



たすきと共に思いをつなぐ

12月6日、第59回浮き城のまち行田駅伝競走大会が総合公園で開催されました。

2,200メートル、1,150メートルのコースに市内外から96チームが参加。選手たちは、寒さを感じさせない力強い走りでもちの思いが込められたたすきをつなぎました。少しでも早くたすきをつなぐため、力を振り絞るようにして走る選手に、沿道からは熱い声援と拍手が送られていました。



チームの勝利を目指して

12月5日、行田グリーンアリーナでドッジボール大会が開催されました。

今年で24回目を迎えた同大会に、31チームが参加。各学校の選手らは勝利を目指して、チーム一丸となって競技に臨みました。相手選手にボールが当たると、会場からは大歓声。また、親善大会とあって、試合後は選手同士お互いに健闘を分かち合っていました。



体験談から戦争をたどる

12月10日、桜ヶ丘小学校で6年生を対象にした戦争の体験を聞く授業が行われました。

この授業は、同校の学習を支援している「桜ヶ丘小学校応援団」の団員から戦争体験の話聞き、戦争の実情や悲惨さを学ぶことを目的に毎年開催されています。当事者から語られる戦時中の学校生活や、空襲から命からがら逃げた経験、終戦後の町の様子など教科書には書かれていない「生」の歴史を聞いた児童たち。講義後も積極的に質問する姿からは、かつて多くの人の命を奪った戦争に向き合い、理解しようという強い気持ちを感じられました。



ぎょうだ足袋コレを初開催 2015ぎょうだ“夢”まつり

11月23日、産業文化会館前の特設ステージ周辺で2015ぎょうだ“夢”まつりが開催されました。

平成24年度から食・農業・環境の祭典として行われているこの催しは、市内の商工業者や各地のご当地グルメなどの店舗が軒を連ね、開催以来毎年にごわいを見せています。今年もゼリーフライグランプリ店を決定する「行田ゼリーフライ選抜総選挙」をはじめ、ゼリーフライの大食い大会を実施。さらに今年は「ぎょうだ足袋コレ」も行われ、出場者は自身でデザインした足袋とのコーディネートを観客にアピールし、注目を集めていました。



イクメンになるヒントは

11月28日、きっずプラザあおい祭りが開催されました。

地域子育て支援センター「きっずプラザあおい」は、平成26年4月のオープン以来多くの子育て世帯に利用されてきました。この日は日頃の感謝の気持ちを込めて、父親向けの講座やベビーマッサージ、さらにはゆるキャラとのふれあいなどさまざまなイベントが行われました。父親向けの講座では、労働・子育てジャーナリストの吉田大樹さんが自宅でする体を使った遊び方を紹介。参加したお父さんは「肩車」や「相撲」、「とうせんぼゲーム」などを実践し、育児に対する意識を高めることができたようです。



次世代エネルギーを体感して学ぼう

11月24日、北河原小学校で6年生を対象にした次世代エネルギー講座「水素エネルギーを学ぼう!」が実施されました。

この講座は、次世代エネルギーである水素を活用した最新の燃料電池車に触れることで、エネルギー問題への理解と関心を高めてもらうために行われたものです。子供たちは、水素エネルギーや燃料電池自動車の仕組みについて学んだ後、実際に燃料電池自動車「ミライ」に試乗。乗り心地を体験し、排気ガスの代わりに水が排出される様子を見学しました。「速いのに静かでびっくり」「水しか出ないんだね」と、子供たちは最新の技術に驚きながら、熱心に講義に耳を傾けていました。



静かな闘志を内に秘めて

11月28日、行田グリーンアリーナで第10回彩の国21世紀郷土かるた行田大会が開催されました。

この大会は、埼玉県について学び、郷土を愛する心や礼儀正しさを身に付けることを目的に毎年行われているものです。今年も団体戦19チーム、個人戦24人が参加し、優勝を目指して熱い戦いが繰り広げられました。団体戦では、試合に勝ったチームが喜びを分かち合う一方、悔しさのあまり涙を見せるチームの姿も。どの参加者も真剣に試合に臨み、最後の1枚まで諦めない姿が印象的な大会となりました。

